

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2024年度	開講キャンパス	宮崎キャンパス	開設学科	管理栄養学科
科目名称	管理栄養士演習 I			授業形態	演習
科目コード	306100	単位数	1単位	配当学年	3
担当教員名	木村 志緒			実務経験教員	○
授業概要	<p>(1)15回分を木村が担当する。 (2)「社会・環境と健康」分野の模試過去問を学習する（毎回16問）。 管理栄養士国家試験に合格するには200問中120問に正答することが必要である。 そのうち、「社会・環境と健康」分野について16問出題されるので、10問程度正答する必要がある。 （言い換えれば、16問すべてを正解する必要がないともいえる。） 模試問題では、国試類似の問題で必ずおさえておきたい問題や深掘する必要性の低い問題など様々なレベルの問題が混在しているので、それらを区別して理解を深めることによって4年次8月以降の模試でコンスタントに10点程度正答できる力を身に付けられることを目指し解説を行っていく。</p>				
関連する科目	<p>事前に、公衆衛生学、健康管理概論を受講することが望ましい。 同時期に、管理栄養士演習Ⅱを受講することが望ましい。</p>				
授業の進め方と方法	<p>出席確認 ➡教員の模試問題解説をきく（スライドは必要であれば、スマホ等で撮影してください） ➡翌週分の問題配布 ➡何も見ずに解き、回答番号をLINE®に送信（授業終了までに送信、約20分程度で解くこと） ➡資料を見たり、周囲と意見交換しながら解き、回答番号をLINE®に送信（翌週の授業開始10分前までに送信）</p>				
授業計画【第1回】	<p>オリエンテーション 授業概要、授業計画、評価方法等について理解する。 翌週分の問題に取り組む。</p>				
授業計画【第2回】	<p>模試問題1 国試レベルでない問題が1～2問程度 （例：介護給付費の財源について）</p>				
授業計画【第3回】	<p>模試問題2 国試レベルでない問題が5～6問程度 （例：ニコチン置換療法について）</p>				
授業計画【第4回】	<p>模試問題3 国試レベルでない問題が5～6問程度 （例：年少人口割合について）</p>				
授業計画【第5回】	<p>模試問題4 国試レベルでない問題が4～5問程度 （例：健康格差を生み出す要因について）</p>				
授業計画【第6回】	<p>模試問題5 国試レベルでない問題が5～6問程度 （例：ジニ係数が1に近いほど所得格差が大きいことについて）</p>				
授業計画【第7回】	<p>模試問題6 国試レベルでない問題が4～5問程度 （例：健康増進法における敷地内禁煙の対象について）</p>				
授業計画【第8回】	<p>模試問題7 国試レベルでない問題が1～2問程度 （例：後期老年人口割合について）</p>				
授業計画【第9回】	<p>模試問題8 国試レベルでない問題が1～2問程度 （例：睡眠で休養が十分に取れていない者の割合について）</p>				
授業計画【第10回】	<p>模試問題9 国試レベルでない問題が3～4問程度 （例：ウインスローが提唱した公衆衛生の定義について）</p>				

授業計画 【第11回】	模試問題10 国試レベルでない問題が3~4問程度 (例：日本国憲法第13条幸福権について)
授業計画 【第12回】	模試問題11 国試レベルでない問題が2~3問程度 (例：心疾患死亡の内訳について)
授業計画 【第13回】	模試問題12 国試レベルでない問題が3~4問程度 (例：トップダウン型アプローチとボトムアップ型アプローチについて)
授業計画 【第14回】	模試問題13 国試レベルでない問題が3~4問程度 (例：予防医学のパラドックス等について)
授業計画 【第15回】	模試問題14 国試レベルでない問題が4~5問程度 (例：痩身傾向児の割合について)
授業の到達目標	①模擬試験の社会分野でコンスタントに6割以上正答できるよう力を身に付ける【知識・理解を応用し活用する能力】 ②課題提出の期限を守るようスケジュール管理能力を身に付ける【自らを律して行動できる力】 ③社会人となった時、管理栄養士として他者と連携し、協調・協働して行動できる力を身に付ける【協調・協働力】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	学習時間：20~40分程度 翌週分の問題について、教科書や参考書を見たり、周囲の人と意見交換しながら解き、回答番号をユニパに送信する。
授業時間外学習【復習】	学習時間：10~20分程度 国家試験に向けて長期的に知識を定着させるための資料を作成したり、反復学習したりする。
課題に対する フィードバック	問題解説をスライドを用いて行う。 スライドは必要であれば適宜、撮影可。
評価方法・基準	以下の項目について相対的かつ総合的に評価する (1)何も見ずに解いた回答番号による正答率・・・6割(13回分) (2)資料を見たり、周囲と意見交換しながら解いた回答番号による正答率・・・3割(14回分)
テキスト	特に指定しない。
参考書	特に指定しない。
備考	